

大分市立東植田小学校 学力向上プランI(8月)

学校教育 目標	平和で持続可能な社会を目指し、自ら考え、仲間とともに高めあう東っこ
育成を 目指す 資質・能力	【知識及び技能の習得】 学びあう子 【思考力、判断力、表現力等の育成】 考える子 【学びに向かう力、人間性等の涵養】 高めあう子

	学力状況について	学習状況について
児童 生徒 の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題
	国語:「調べたことをもとに文章を書く」「修飾語」「話す・聞く」 算数:「割合」「面積」「小数」「データ活用」 理科:「電気のはたらき」「自然の中の水」	・「条件を使って書く力」「考えを筋道立ててまとめ、説明する力」が不十分。 ・「授業の中でどうしてだろうと思って調べている」「授業に集中して取り組める」と回答した児童の割合が低い。(児童質問紙より)
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から)	
指導 の 状況	・「授業で学習したことがよく分かり、楽しくできた」と回答した児童は92.4%、「授業中、映像を見たり、一人1台端末を使ったりして、自分の考えをもつことができた」と回答した児童は91%、「家での勉強をきちんとし、次の朝、先生に出すことができた」と回答した児童は91.4%であった。(1学期末児童アンケートより)	
	・毎時間、「自分の考えをもつ時間の確保している」と回答した教職員は92.3%、「友だちと考えを共有や交流する場を設定する」と回答した教職員は95.8%であった。(1学期末教職員アンケートより)	
	1 組織的な授業改善の取組状況	
指導 の 状況	・公開授業や互見授業を通して、「こどもが自然と課題を見付ける場面(導入)」や「見付けた課題を自分なりの方法で解決する場面(展開)」の手立ての工夫を検証していく。	
	・各種学力調査等の分析結果から明らかになった課題を解決する取組を学年で決めて、2学期から実践し、学期末に振り返り、3学期につなげる。	
	2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況	
指導 の 状況	・学習規律の徹底(特に、植田南中学校区小中一貫教育共通の取組:授業前後の挨拶、授業準備、話の聞き方等)のため、学習ガイドを教室に提示し、1学期末に振り返り、課題は2学期につなげる。	
	・指導体制の工夫(個別指導、ローテーション道徳、教科担任制等)、ICT機器の活用、単元末テストに向けて基礎・基本の復習を行った。	
	・家庭学習の習慣化については、学級懇談等で重要性を伝え、86.2%の保護者が肯定的回答をした。(1学期末保護者アンケートより)	

学力に関する達成指標

○国語・算数の単元末テストの正答率を80点以上が80%以上、かつ50点以下を8%以内ににする。

	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 〈授業改善テーマ〉 自ら問いを見付けて、主体的に解決しようとするこどもを育てる授業 〈授業改善の重点〉 ○「新大分スタンダードR8改訂版、大分市授業力向上ハンドブック」を基にした生徒指導の3機能を意識した授業展開の工夫 ○単元や毎時間の授業の中に、「①こどもが自然と課題を見付ける場面(導入)」と、「②見付けた課題を自分なりの方法で解決する場面(展開)」を意識的に位置付けた授業の推進。 ○家庭学習の工夫、小中一貫学習規律の定着、小3以上の教科担任制の実施	
	〈取組内容〉 ・授業者は単元や毎時間の授業において、教材や発問の工夫により引き出したこどもの疑問や考えを板書に位置付ける。 ・授業者は、単元の適切な場面で、ICT機器を用い、問題提示を分かりやすくしたり、操作活動等を取り入れたりしながら、児童が自分の考えをもてるようにする。	〈家庭・地域の取組内容〉 ・担任は、毎日、児童の実態に合わせた家庭学習の内容を工夫し取り組ませる。 ・担任は、児童や保護者に、家庭学習の重要性・習慣化を、学級懇談、通信等で伝えていく。
	〈取組指標〉 ・授業者は毎時間、「自分の考えをもつ時間の確保」「友だちの考えを共有や交流する場の設定」を行う。 ・国語・算数の単元末テストに向けて、児童の実態を把握するため、基礎・基本の問題の復習を100%実施する。 ・全ての教員が年3回以上他の教員の公開授業や互見授業を参観し、意見や感想を書いて提出したり、研修等で意見を交流したりする。	〈家庭・地域の取組指標〉 ・児童に家庭学習を提出するよう、週に1回以上、声をかける。 ・家庭学習の内容を工夫(授業と連動させる・基礎・基本に取り組む・宿題の量を実態に合わせる)して、提出率を100%にする。
	〈検証指標〉 ○国語・算数の単元末テストの正答率を80点以上が80%以上、かつ50点以下を8%以内ににする。 ・「授業が分かった」、「自分の考えをもつことができた」、「家での勉強をきちんとし、次の朝、先生に出すことができた」と肯定的回答をした児童を90%以上にする。 ・毎時間、「自分の考えをもつ時間の確保をする」「友だちと考えを共有や交流する場を設定する」を行ったと肯定的回答をした教職員を100%にする。	〈家庭・地域の検証指標〉 ・小中一貫した学習指導(学習ガイド)の取組による、保護者の家庭学習の習慣化の肯定的回答を87%以上にする。 ・担任は、保護者に、学級懇談や学年通信等を利用し、家庭学習の習慣化を促しているとして肯定的回答をした教職員を100%にする。
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ○小中一貫共通の「学習ガイド」「生活ガイド」を活用し、植田南中学校区3校で課題を出し合い、共通の取組を行う。 ○基礎・基本が定着していない児童や家庭学習が定着していない児童には、個別に指導し補充を行う。 ○授業等で活動を通して、地域の方と交流したり、地域のために何ができるか考えたりすることができる児童を育てる。	